

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

		自己評価 実践状況	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	三つの運営理念をホーム内(事務所・各ユニット)に掲示し、会議や毎日の朝礼の場で唱和することで、運営理念にそったケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加、入居者様との散歩や買い物等を通じて、地域の人々と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談だけではなく、認知症ケアに悩んでいる方々の介護相談を随時受け入れている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね二ヶ月に1回開催している。ご家族・民生委員・市役所担当者・地域包括・自治会等、ホームの運営に関して様々な意見を頂きサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢介護課の担当者や地域包括支援センターの担当者の方とは、運営推進会議や、市の連絡会議等を通じてホーム運営上の意見を頂いている。疑問、質問は率先して相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行われていない。玄関はご家族様や近隣の方々の不安があり施錠しているが、職員と一緒にならいつでも外へ出られる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議等で学ぶ機会を設けている。そのような行為が生じないように管理者・リーダーはスタッフを指導し意識を高めている。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		<p>と活用 支援事業や成年 ち、個々の必要 を国体各と話し合 活用できるよう支 援している</p>	<p>全スタッフが理解、活用できるように、ホーム内の研修を行い、又、外部研修への参加も促している。</p>	
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては個室にて対応している。契約書・重要事項説明書の読み合わせをし、ご家族様のご理解・ご納得頂けるまで詳しく説明を行っている。</p>	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホーム入口に苦情相談窓口の掲示、ご家族様アンケート、面会時等で意見・要望を聞いている。その結果を踏まえ更なるサービスの向上、ホーム運営に反映している。</p>	
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ホーム責任者との面談、会議、カンファレンス等でスタッフの意見・提案を聞く機会を設け更にそれについて話し合い反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>入職前経験年数・勤続年数・資格手当・コンピテンシー評価等、個人の努力が反映されるシステムになっている。</p>	
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修については情報をアナウンスし、参加は個々に任せている。本部研修、又はホーム内の勉強会等で学ぶ機会を設けスタッフのスキルアップに取り組んでいる。</p>	
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他ホームとの合同イベントや地域のホームへの相互訪問し行事参加を通じて良い面を取り入れるようにしている。</p>	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		環境が変わることへの不安、悩みに耳を傾け、ご本人が安心してホームで生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居させることへの不安、悩み等を取り除き安心して任せられるように努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居が決まった段階から、アセスメント等でご本人とご家族の要望をお聞きし、入居と同時に快適なサービスが受けられるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることはして頂き、ご本人の役割や存在感が感じられるよう支援している。 毎日の生活の中でお互いに信頼関係を築けるよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が行事に参加し、入居者様と共に楽しめる機会を設けている。状況が変われば相談し、共に考える関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との外出や外食は自由に行って頂いている。あまり面会にくることのできないご家族様へは面会に来て頂けるように呼びかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等への参加を促し、ご入居者様同士が関わり合いを持てるように支援している。又、関係を把握した上で座席の変更などを工夫している。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		も、これまでの関 りて本人・家族 に努めている	ご家族様の迷惑にならない程度にフォロー し、様々な面で気兼ねなく相談に来て頂 けるように話をしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	会話を通じてご本人の希望や悩みを聞きだ すように努めている。意思疎通が困難な方 は言動や行動に着目し何を望んでいるのか を考えるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居前アセスメントにてご家族様から情報を 頂いている。又、入居後も疑問や質問はそ の都度ご家族様にお聞きし把握に努めてい る。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、言動・行動などから 一人ひとりの現状把握に努めている。 又、カンファレンス等で情報を共有している。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	毎月カンファレンス開催し、居室担当者を中 心に話を進め、ご本人ご家族の要望を元 に、スタッフの意見を反映させケアプランを 作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人介護記録とは別にノートを作り、そこ に気づきや意見などを記載している。 記載した内容はケアプラン見直しの時に活用して いる。ご本人の様子は毎日の申し送りとケア日報 からスタッフ間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対し柔軟に対応するようにし ている。なるべくご家族を絡め協力して頂け るように取り組んでいる。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		地域資源を把握しながら安全で豊かな支援している	ご家族との関係、地域イベントの参加、近隣での買い物など、地域と関わるように支援している。又、定期的のボランティアの受け入れも行っている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームが契約している訪問診療(月2回)もあることを説明した上で、ご本人、ご家族に選択して頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週2回、火・木と看護師が配置されている。その都度、相談や入居者様の様子を報告し健康管理を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来るだけ面会に行き、ご本人の様子や医療機関、ご家族から情報を得ている。それを元に退院後のケア体制を話し合い、疑問点については、その都度関係者に相談している。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人様の状態を見ながら、できるだけ早い段階で終末期ケアの方針をご家族様と交え相談するようにしている。ホームで出来ること出来ないことを明確にし、ご家族様に伝え方向を決めて頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習会、ホーム内での勉強会で急変時の対応について学ぶ機会を設けている。救急隊の質問に即答できるように、入居者情報は最新のものにしよう注意している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員立会の元、定期的に防災訓練を実施している。緊急連絡網を作成し近隣のスタッフが直ぐに駆けつけられるようにしている。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		日々の支援		
		<p>敬語を基本としているが、その人に合わせた言葉遣いをするようにしている。居室で過ごされている時は、危険がない限りプライバシーを配慮し、見守る姿勢で対応している。</p>		
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々のコミュニケーションでその方が何を望んでいるか聞きだすようにしている。私物を買うに行く時は、同行して頂きご本人に選んで頂いている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的にはご本人のペースで自由に過ごして頂いているが、外出やレクリエーションは参加を促し、決定はご本人の意思に任せている。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>季節ごとに衣替えを一緒に行っている。月1回、近隣の訪問理容が来て、ご本人の希望のヘアスタイルにカットしてもらっている。気分転換を兼ね、地域の理美容室に行くこともある。</p>	
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフも同じテーブルに着き、一緒に食事をしている。箸・ご飯茶碗・お椀はご本人専用のものを使って頂いている。片づけは役割の決まった入居者様にお願いしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>本部の栄養士が献立を立てている。禁食の管理は徹底し、好みも出来るだけ希望に添えるように厨房と相談しながら提供している。水分に関して自発的に水分補給が行えない方は声かけし確保している。又、時間を決めて提供をしている。</p>	
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、行っている。口腔ケアに協力的でない方、一人で出来ない方は、声かけ介助にて行っている。義歯を自己管理出来ない方は、夜間お預かりし洗浄している。</p>	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		ADL低下でリハビリパンツを使用している方はいるが、トイレでの排泄を基本とし出来る限り誘導を行っている。ご本人の排泄パターンを把握し定期的に誘導を行っている。又、行動の変化、サインを見逃さないように努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操やレクリエーションで体を動かしたり、牛乳や乳酸菌飲料の提供で予防に努めている。それでも改善されない場合は医師に相談し指示を受けている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2・3回午後入浴だが、ご本人の希望があった場合は、スタッフが一人の時間帯以外は希望にそえるように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度管理や、安楽な体制で休めるように支援している。就寝確認は行っているが、就寝時間は決めずご本人の意思を尊重している。起床時も同様である。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方薬がわかるようにファイルに綴じ、いつでも閲覧できるようにしている。特に変更になった時には様子観察強化するように指導している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活に張り合いが持てるようにその方の得意なことや役割を持って頂いている。食器拭き・洗濯物たたみ・縫物等) 晩酌をされる方、煙草を吸われる方、その方の習慣を尊重している。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物など、声かけにて希望する方は出かけられるように支援している。希望されない方でもなるべく外気にふれて頂くようにしている。 地域のイベントや四季折々の近隣の観光名所などを見に出かけている。	

		自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		理解し、家族と相談の上で個別に対応している。ご本人で管理出来ない方はトラブルを避ける為に事務所で管理している。スタッフが同行し必要な物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りができる方はいないが、電話の希望が聞かれた時は状況に応じて取り次いでいる。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の飾り付けや、行事の写真を掲示し、居心地良く過ごして頂けるように工夫している	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・リビングなど自由に行き来できご本人のペースで過ごせるように工夫している。個々の快適に感じる空間を大事にしている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は自宅で使用していた物や愛着のある物を持参して頂きご本人が安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分にはわかりやすいように張り紙をたり、自室内ないもその方の身体機能を損なわない工夫をしている。(ベット柵を立ち上げりの補助具として活用する等)	